



平成29年度 市長施政方針

山陽小野田市が誕生して12年が経過した今日、私の山陽小野田市の現状認識は、一言で言えば、「機は熟し、いよいよ好機到来」ということです。

本市は、山陽自動車道、山陽新幹線といった高速交通網の利便性の高さ、自然の豊かさや温暖な気候といった魅力に加え、古くからの交通の要衝であり、工業を中心に発展してきた歴史を有しています。また、合併当初は厳しい財政運営を余儀なくされましたが、前白井市長の力強いリーダーシップと多くの皆様の御協力により改善が進み、現在では次代につながる都市基盤の整備も進んできております。加えて、山口東京理科大学やレノファ山口など、本市が飛躍し得る数多くのポテンシャルが内在しており、その意味で、今こそ好機到来であると捉えております。

人口の減少と少子高齢化が進む中で、全国各地でその対応が大きな課題となっており、本市も決して例外ではありません。しかしながら、これらのまちの魅力や財産を活用しながら、「山陽小野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を積極的に推進し、産業振興を通じた雇用の創出や、出産・子育て環境の整備・充実、教育環境の向上を図っていくことが、若者が希望を持って住むことができるまちの実現につながると確信いたしております。

特に、来年開設予定の山口東京理科大学の薬学部は、間違いなく本市の新たな活力を生む起爆剤となります。全国的に若者の都市部への流出に歯止めがかからない中で、薬学部には毎年120名の学生が6年間増え続けることは、他の都市にはない有利な財産であり、必ずやにぎわいの創出につながると言えます。今後、工学部、薬学部の知的・人的資源を活かして地域の活性化を図り、「大学のあるまち」から「大学の特性を活かしたまち」へと、本格的な取組をスタートいたします。この薬学部開設に向けての確実な業務の遂行に併せて、大学に関する業務を所管する新たな組織として「大学推進室」を設置して取組んでまいります。

また、昨年度整備しましたクラブハウス機能を併せ持つスポーツ交流施設を使用するレノファ山口との連携や、全国規模の公募展として定着しています現代

ガラス展などは、ほかにはない本市の財産であり、地方創生を深化させる強力な推進力であります。

他の自治体にあるものばかりを求めるのではなく、このまちが現在持っている素晴らしい歴史・伝統・文化・自然・スポーツなどの資源を活かしながら、各地域での人と人とのつながりを大切に、子どもからお年寄りまで、このまちに生まれ、育ち、学び、働き、住んで本当に良かったと実感できるまちを目指します。そのためには良いチームをつくることが私の基本的な考え方です。私は、私自身の経営感覚、バランス感覚を活かし、トップセールスをはじめ、市長としてのリーダーシップを発揮し、市長自らが高い志をもって動き、活力を創生し、常に挑戦と前進と向上を目指します。

今年度の予算編成におきましては、政策的経費において、継続的な事業が中心となっており、まだ私自身の思いが決して十分反映されたものではありませんが、今後も引き続き、市民のみなさんの御意見等をしっかりと聞きし、検討を踏まえた上で、市民サービスの向上に努めてまいります。

そのためには、市政に対する職員一人一人の意識の向上と目的の共有が必要と考えており、各所属長を対象に、創造的思考の伸長や改革意識の高揚を図り、各課長の持っているアイデアを活かせるような事業を導入し、実行することで職員の人材育成や組織の活性化につながる仕組みを構築してまいります。

この4年間の市政の舵取りをさせていただくに当たり、現在策定中の第二次山陽小野田市総合計画において、改めて明確なビジョンをお示ししながら、市民憲章にうたわれていますように、みんなで考え、汗しながら、愛すべきふるさとづくりに共に取り組んでまいりたいと考えており、市長と職員が一丸となって業務を遂行していくことで、本市を「活力と笑顔あふれるまち」にしていく所存です。

議員各位をはじめ、広く市民の皆様の御理解と御協力をお願い申し上げまして、平成29年度の施政方針並びに予算編成の概要説明とさせていただきます。

6月市議会定例会の演説より抜粋